公益社団法人　日本天文学会　理事会議事録

日　　時：2023 年 3 月 10 日（金）17 時 00 分～18 時 22 分
場　　所：日本天文学会事務所（オンライン開催）
出席理事：山本、太田、久保田、町田、鈴木、酒向、鹿野、長瀧、江草、古澤、富田、生田、深沢、西、北本、馬場、山村
出席監事：奥村、花岡
欠席理事：米原

また、次期開催地理事(予定)の金田英宏氏、吉田直紀氏、および、日本天文遺産選考委員長の松村雅文氏が陪席し、佐藤事務長、黒岩事務長補佐、田口谷事務長補佐が出席した。

I.　確認事項など

I-1. 議事に先立ち、出席者が 17 名で定足数を満たし、本会が成立することが確認された。

I-2. 前回議事録の確認

資料 2 に基づき、前回（2022 年 12 月 24 日）の理事会議事録が報告され、承認された。

II.　議題

II-1. 新規加入者および移籍（準 -> 正）の承認　（資料 3、鈴木）

2022 年 12 月 21 日～2023 年 3 月 6 日までに正会員入会申請 26 名(うち 2023 年度から 1 名)、準会員入会申請 6 名(うち 2023 年度から 1 名)、移籍（準 -> 正）1 名の申請があり、賛成多数で承認された。

II-2. 次期 PASJ 編集委員・編集顧問について(資料 4、長瀧)

次期(2023-2024 年度)の編集委員と編集顧問が提案された。資料のリストに重複して記載されている方 1 名を修正の上、賛成多数で承認された。

II-3. 宇宙線国際会議へのブース出展について(資料 4、長瀧)

重力波やガンマ線などの新しい分野からの PASJ への投稿を促進するため、2023 年夏に名古屋で開催される宇宙線国際会議(ICRC2023)に、OUP 社で出版されている PTEP、MNRAS、RAS Technicss and Instruments と共同で PASJ のブースを出展することが提案された。4 誌共同での出展により出展料を抑制でき、またブースの設営も OUP 社が中心となり行うことが説明された。賛成多数で承認された。

II-4. 日本天文遺産の内規改訂について(資料 5、山本、松村)

日本天文遺産の対象物はその所有者と管理者が明確であり、認定された場合に受諾することに同意していることを条件とするための、内規の改正案が提案された。古い対象物に関しては所有物が明確でないものがある可能性があり、所有者の要件に関して「原則として」という文言を付加することが検討されたが、現行の 2 条にある「原則として」という文言により既に包括されていることを確認した。提案は賛成多数で承認された。

III. 報告

III-1. 移籍・退会等の報告（資料 3、鈴木）

2022 年 12 月 21 日～2023 年 3 月 6 日までに正会員退会 12 名、準会員退会 2 名、移籍（正->準）13名があったことが報告された。

III-2. PASJ 編集委員会からの報告（資料 4、長瀧）

(i)2022 年 12 月の編集顧問・編集委員会議に開催されたこと、(ii)増刊特集号「Metre and Centimetre Radio Astronomy in the Next Decade」が刊行されたこと、(iii)現状の運用に合わせるための OUP との覚書が締結されたこと、(iv)2022 年の対 OUP 収支が報告された。また、OUP と大学図書館コンソーシアム連合の契約締結に関する事項を周知すると共に、Open Access 論文に考え方について天文月報などでの発信を検討中であることが報告された。

III-3. 年会実行委員会からの報告（資料 6、古澤）

2023 年春季年会(立教大学)のハイブリッド開催方式が説明された。立教大学メディアセンターにより既に講義室のネットワーク整備が進んでおり、そのシステムを最大限活用できる見込みである。また、最近高校生、大学生(非会員)からの年会参加希望が増えていることが報告された。

III-4. コロナ禍～再開時の年会の在り方/アンケート結果について（資料 7、古澤、太田）

まず 2022 年秋季年会(新潟大学)のアンケート結果が報告された。ハイブリッドによる開催について 85%程度の参加者から肯定的な意見が得られているが、発表に自らのパソコンの使用希望が多く出されていた(2023 春は自らのパソコン使用)。現地スタッフの体制の増強が必要である。次に、Covid-19 後の年会開催モードに関するアンケート結果が紹介され、ハイブリッド開催常態化の要望が大多数であることが報告された。

III-5. 天文教育委員会からの報告（資料 8、富田）

2023 年春季年会で予定されている天文教育フォーラム「天文学研究/教育におけるダイバーシティ推進」について説明された。また、講師紹介プログラム、監修者紹介プログラムともに順調に紹介できていることが報告された。IAU OAE（教育のための天文学推進室）の天文教育コーディネーター（NAEC）日本チームの活動状況が報告された。

III-6. 大学で学ぶ天文学の参考文献について（山本）

会員が著者となっている教科書を参考文献として掲載を希望されていることが報告された。

III-7. 今後の年会進捗状況報告（金田、吉田、町田）

2023 年秋季年会(名古屋大学)の準備状況が報告された。懇親会の開催有無を検討中であり、4 月頃に決定予定である。

III-8. 天文月報の近況報告（江草）：

Covid-19 対応のため全記事をオンラインで一般に公開していたが、4 月号から、発行後 1 年間は一部の記事のみを一般に公開しそれ以外の記事は購読者のみに公開する、以前の方式に戻すことが報告された。

III-9. 事務所の近況報告（佐藤良）：

2022年12月よりPASJ、および、年会の業務補佐のため、宮沢氏が新規職員として採用され、事務所運営に大きく貢献していることが報告された。

III-10. 日本学術会議法に関する会長声明（山本）：

1月30日に他の複数の学会とともに会長声明を発出したことが報告された。

[資料リスト]

資料1　理事会出欠表

資料2　公益社団法人日本天文学会理事会（2022年12月24日）議事録（案）

資料3　加入者の承認、移籍の承認・報告、退会の報告

資料4　PASJ編集委員会かなお議題と報告

資料5　日本天文学会日本天文遺産内規（平成28 年12 月24 日制定）

資料6　日本天文学会理事会　(2023 年3 月10 日)　年会実行委員会活動報告

資料7　第１部 2022年秋季年会(新潟大学)の感想および コロナ禍～再開期の年会の在り方についての質問年会(2024年3月、2024年9月)開催地について

第２部長期的・COVID-19の影響がなくなった後の年会開催モードについての質問

資料8　天文教育委員会より前回理事会（2022年12月24日）以降の活動報告（2023年3月5日現在）

2023年3月10日

会　長：山本　智　　印

副会長：太田　耕司　　印

副会長：久保田　あや　　印

監　事：奥村　幸子　　印

監　事：花岡　庸一郎　　印